

## はしがき

今年もコロナウイルスは収束せず、感染は広まっていますが、初期に比べて致死率は大きく減少し、授業は対面が多くなりました。しかし、会議はまだオンラインが基本です。会議室に集まる必要のない会議はこのままオンラインでやってほしいと思います。

さて、昨今学会誌や研究誌のオンライン化が進んでいます。中には紙冊子による発行を止め、電子版のみになったものもあります。しかし、紙冊子を手にとってぱらぱらと見ることは研究にとって不可欠なことです。本誌にも完全オンライン化の波が押し寄せていますが、頑張っ

2022年12月15日

(杉村泰 記)

### 名古屋大学言語文化研究会

杉村 泰            勝川 裕子

玉岡 賀津雄

## 執筆者一覧(掲載順)

玉岡 賀津雄	湖南大学外国語学院・教授、名古屋大学人文学研究科・名誉教授
周 莉	大阪大学大学院言語文化研究科・博士後期課程
李 光赫	大連理工大学外国語学院・副教授
ボイクマン 総子	東京大学大学院総合文化研究科・教授
根本 愛子	東京大学大学院総合文化研究科・准教授
松下 達彦	国立国語研究所・教授
王 雲姣	人文学研究科日本言語文化専攻・博士後期課程
疏 蒲劍	江蘇理工学院外国語学院日語系・副教授
大本 啓典	江蘇理工学院外国語学院日語系・外国人教師
杉村 泰	人文学研究科人文学専攻日本語教育学分野・教授
張 婧禕	宮崎大学多言語多文化教育研究センター・講師

## 目 次

玉岡 賀津雄	(誌上講座)語彙処理研究のための実験方法の紹介 —語彙性判断課題, 語彙命名課題, プライミング課題—	5
周 利・李 光赫・玉岡 賀津雄	日中対訳コーパスの共起頻度に基づいた対訳関係解析 —「てくる」の日中対訳の共起頻度を例に—	25
ボイクマン 総子・根本 愛子・松下 達彦	スピーキングのレベル判定のための弁別性焦点化ルーブリック —非日本語教師による判定結果の分析—	41
王 雲姣	日本語の感情動詞の構文的特徴について	57
疏 蒲剣・大本 啓典	21世紀における日本の漫才と中国の相声について	77
杉村 泰	日本語母語話者の〈起点〉を表す格助詞「を」と「から」の選択 —選択率と二種類の許容度調査から—	91
杉村 泰	中国人日本語学習者の〈起点〉を表す格助詞「を」と「から」の選択 —選択率と二種類の許容度調査から—	107
張 婧禕	中国語学習意欲尺度の開発 —日本人中国語学習者のデータによる評価—	127

『ことばの科学』の執筆要項及び第1号～34号の内容に関してはホームページをご覧ください。

<https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/research/research-sub5/>

